

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 読解に困難を抱える生徒を支援するための言語処理に基づくテキスト表示技術

2. 個人研究者名

松崎 拓也（東京理科大学理学部 教授）

3. 事後評価結果

自然言語処理技術を応用し、文章の表示形態を改善することで、教科書等のテキスト読解支援技術の確立と読解スキルの伸長モデルの構築を目指した。表示方法の変更による効果を検証するため、小中学生を対象に数百～数千人規模の実験を行った。

当初の目的である読解支援技術の確立には至らなかったが、既存の手法の限界を提示した。また、読解テスト調査を通して「なぜ読めないのか」を様々な角度から調査し、読解には想定以上の多様な要因が存在し、分析データの蓄積が必要であることを明らかにした。

今後は、オンライン教育への対応を見据えた展開や、大規模な統計分析結果に限らない生徒1人1人に対応したきめ細かな支援を実現する方法の解明を期待したい。また、教科書の改訂に携わる等、教育デザインへの積極的な貢献を推進して欲しい。

（2021年9月追記）

本課題は、新型コロナウイルスの影響を受け、6ヶ月間期間を延長した。コロナ延長期間では、読解能力分析のための係り受け解析処理の高精度化とその要因の調査を行った。また、板書形式の講義動画を非常に小さなデータサイズで作成できるシステムを開発した。新型コロナウイルスの影響による教育のオンライン化は急速に進んでおり、理解しやすいテキストや動画の必要性は高まっている。今後もニューノーマルでの教育システム実現に向けて研究を進めてほしい。